

令和6年8月20日

隠岐支庁 農林水産局 農業振興部

標題 地元産野菜の自給率向上に向け、「産直出荷チャレンジ塾」を初開催！

(ダイジェスト)

7月12日に、園芸生産者の裾野を広げる取組みの一環として、新たに野菜出荷にチャレンジしたい意向のある受講生を対象とした、産直出荷チャレンジ塾を開催しました。

講座終了後の意見交換では、各受講生のこれまでの取組みや出荷に対する考えなど、それぞれの意見を出し合う活発な意見交換となりました。

今後は、ほ場での現地実習を行い、産直や量販店への出荷を目指します。

隠岐の島町で流通する青果物は、ほとんどが島外から供給されていますが、町内産に対する量販店等からの需要は非常に高く、地元産青果物の生産拡大が大きな課題となっています。

課題解決に向け、園芸生産者の裾野を広げる取組みとして、R3年度から「野菜づくり講座」を行ってきましたが、家庭菜園から直売所等出荷へのステップアップには上手くつながっていない状況でした。

そこで、今年度からは、確実な出荷につなげられるように募集対象を出荷意向のある対象に絞り、名称も講座の趣旨が伝わりやすい「産直出荷チャレンジ塾」へと改め、企画内容も変更して受講生を募った結果、産直出荷に意欲を示す3名の受講生を確保することができました。

7月12日に開催した第一回産直出荷チャレンジ塾では、土づくりや播種・育苗、病害虫対策などの基礎知識について座学を行いました。

座学の後は、受講生、JAしまね隠岐地区本部、隠岐の島町役場の関係機関を含めた意見交換を行いました。各受講生のこれまでの栽培経験や、栽培にやりがいを感じていること、今後の出荷に対する意欲的な意見などを情報交換できたことで、より一層野菜を栽培し出荷することへの関心も高まったと評価しています。

今後は、栽培管理についての現地実習を行い、一連の講座を通じた初出荷体験につなげられるよう販売先の量販店、産直等の関係者とも連携しながら取組みを進めていきます。

